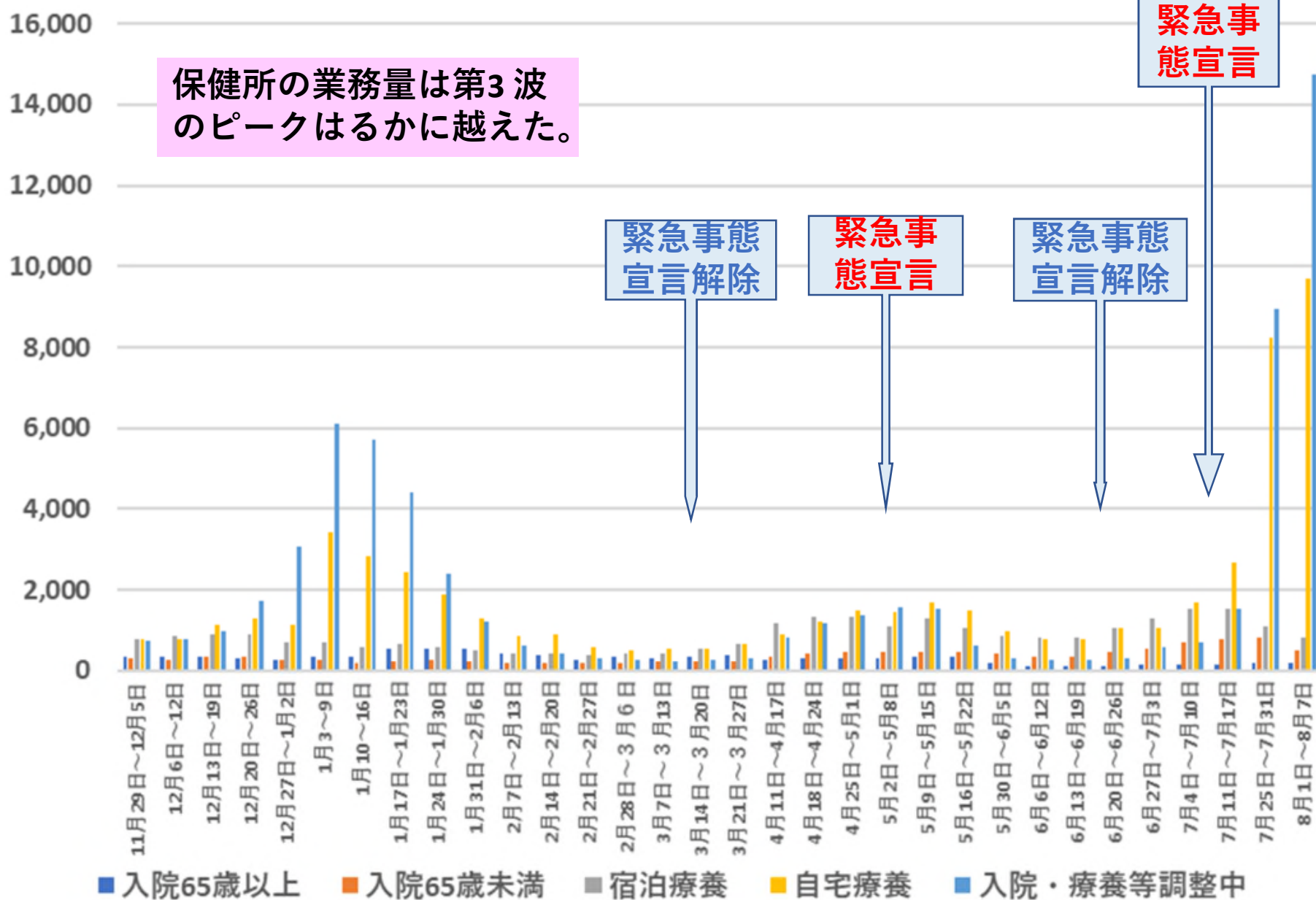


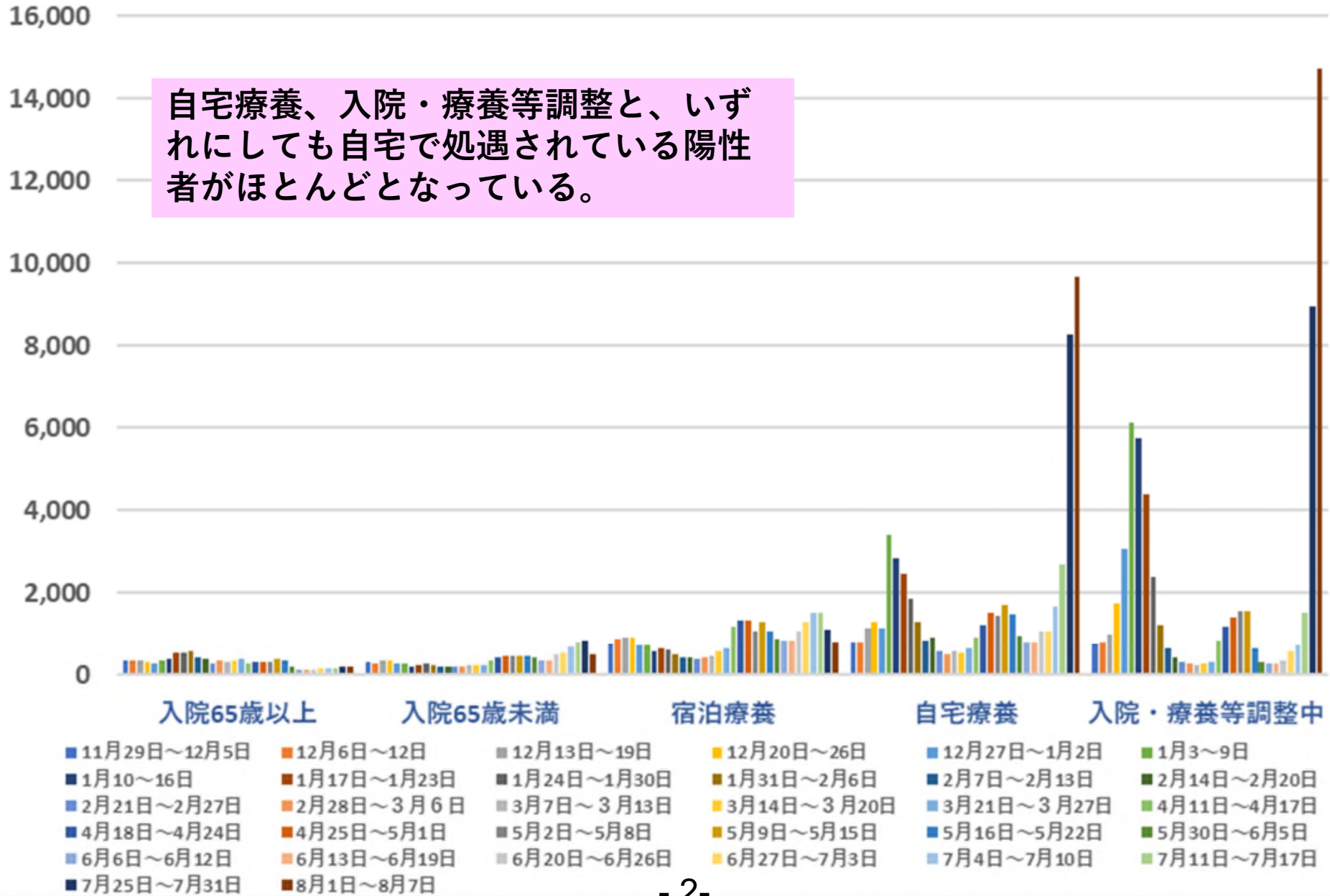
東京都内の陽性者の調整状況（時系列）

資料 3 - 6



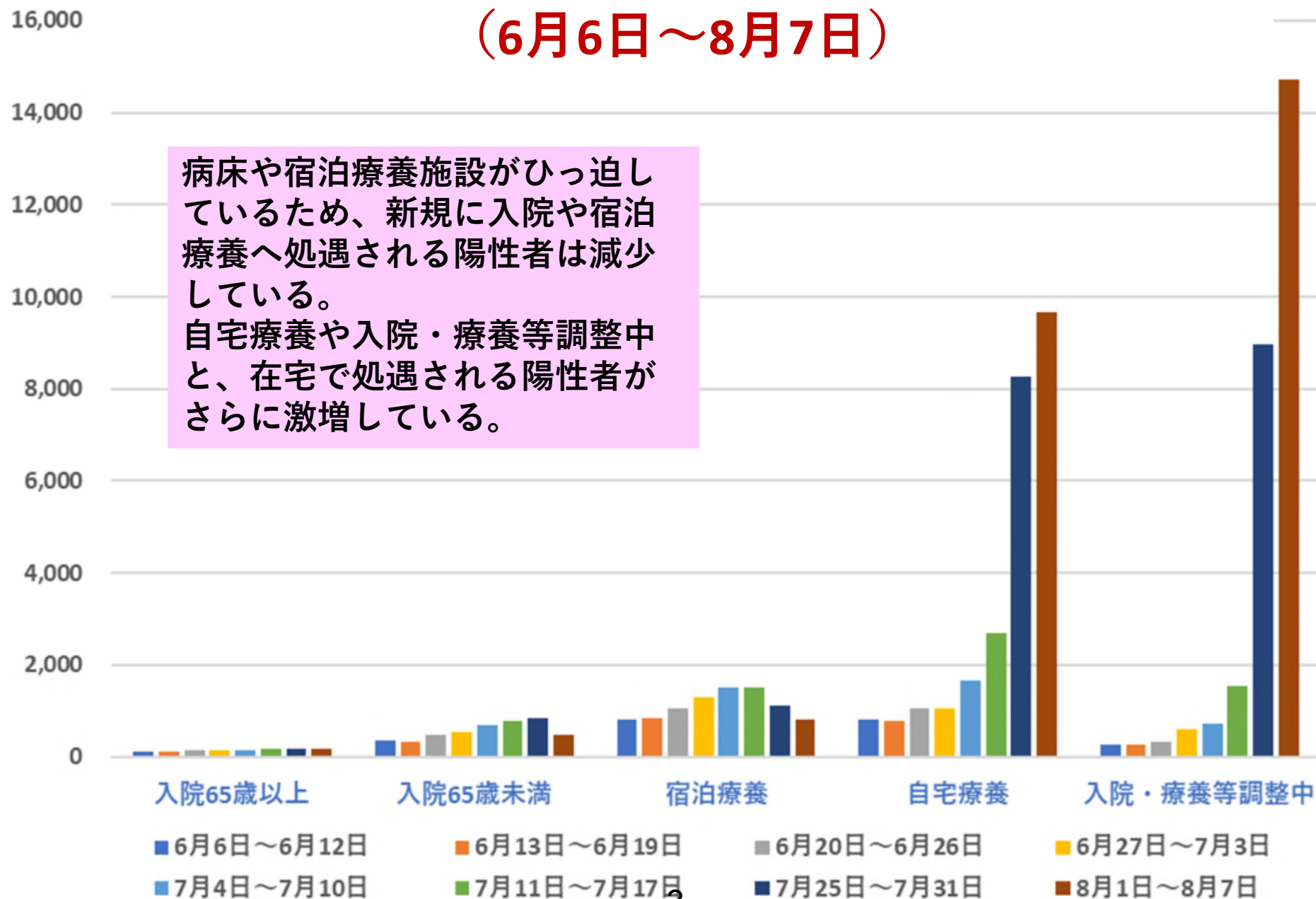
東京都内の陽性者の調整状況（処遇別）

自宅療養、入院・療養等調整と、いずれにしても自宅で処遇されている陽性者がほとんどとなっている。

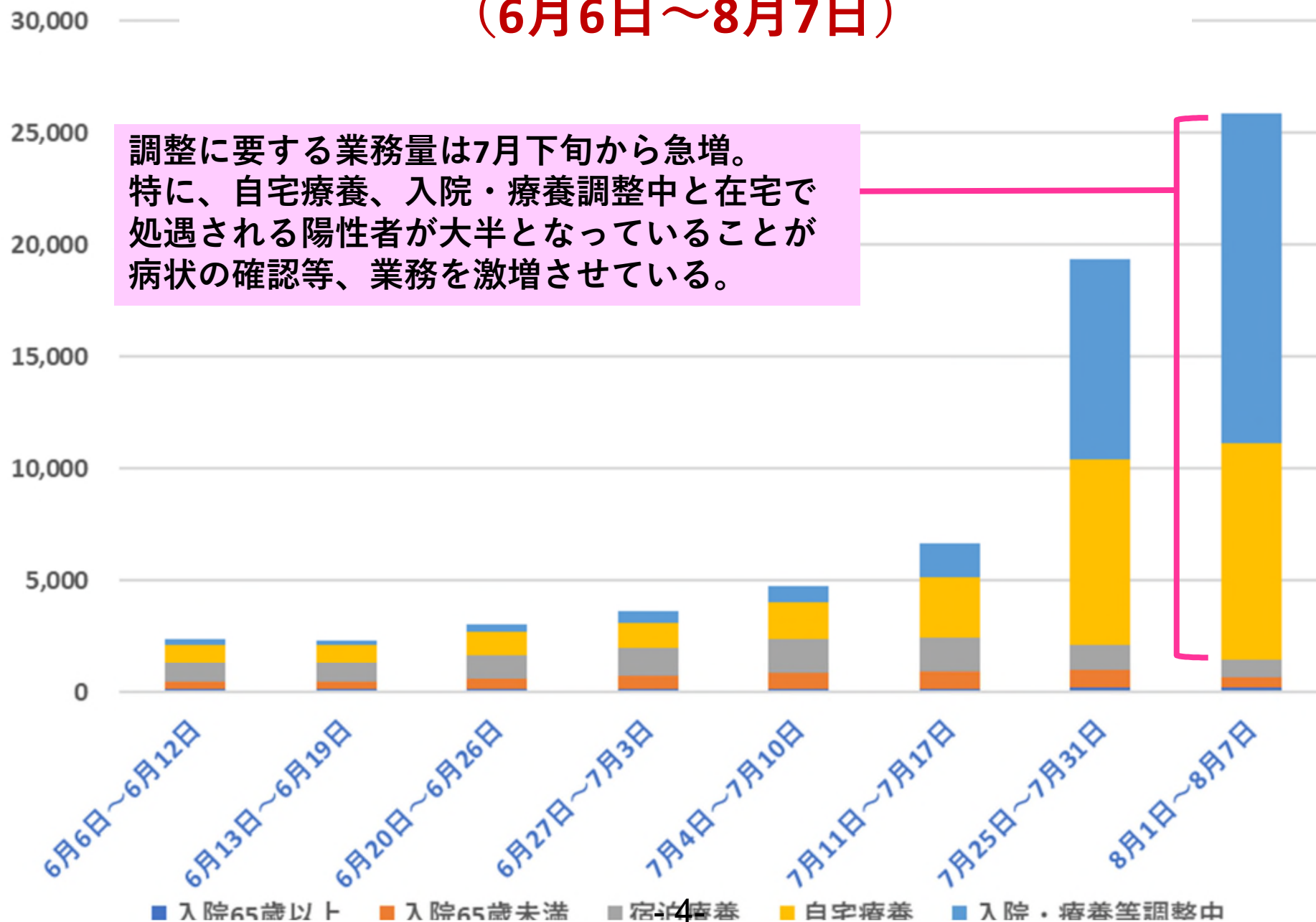


東京都内の陽性者の調整状況（処遇別） （6月6日～8月7日）

病床や宿泊療養施設がひっ迫しているため、新規に入院や宿泊療養へ処遇される陽性者は減少している。
自宅療養や入院・療養等調整中と、在宅で処遇される陽性者がさらに激増している。

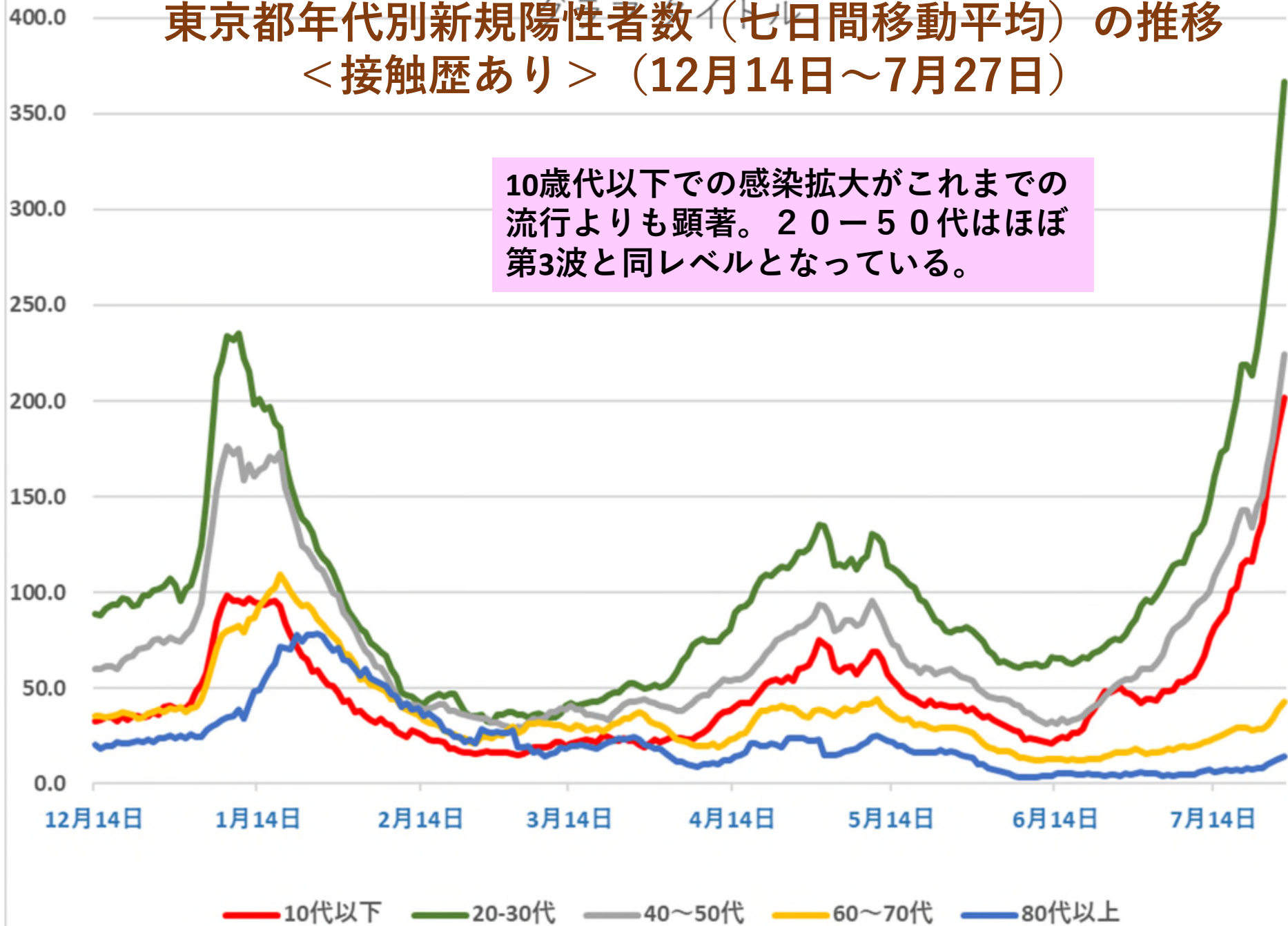


東京都内の陽性者の調整状況（時系列） （6月6日～8月7日）

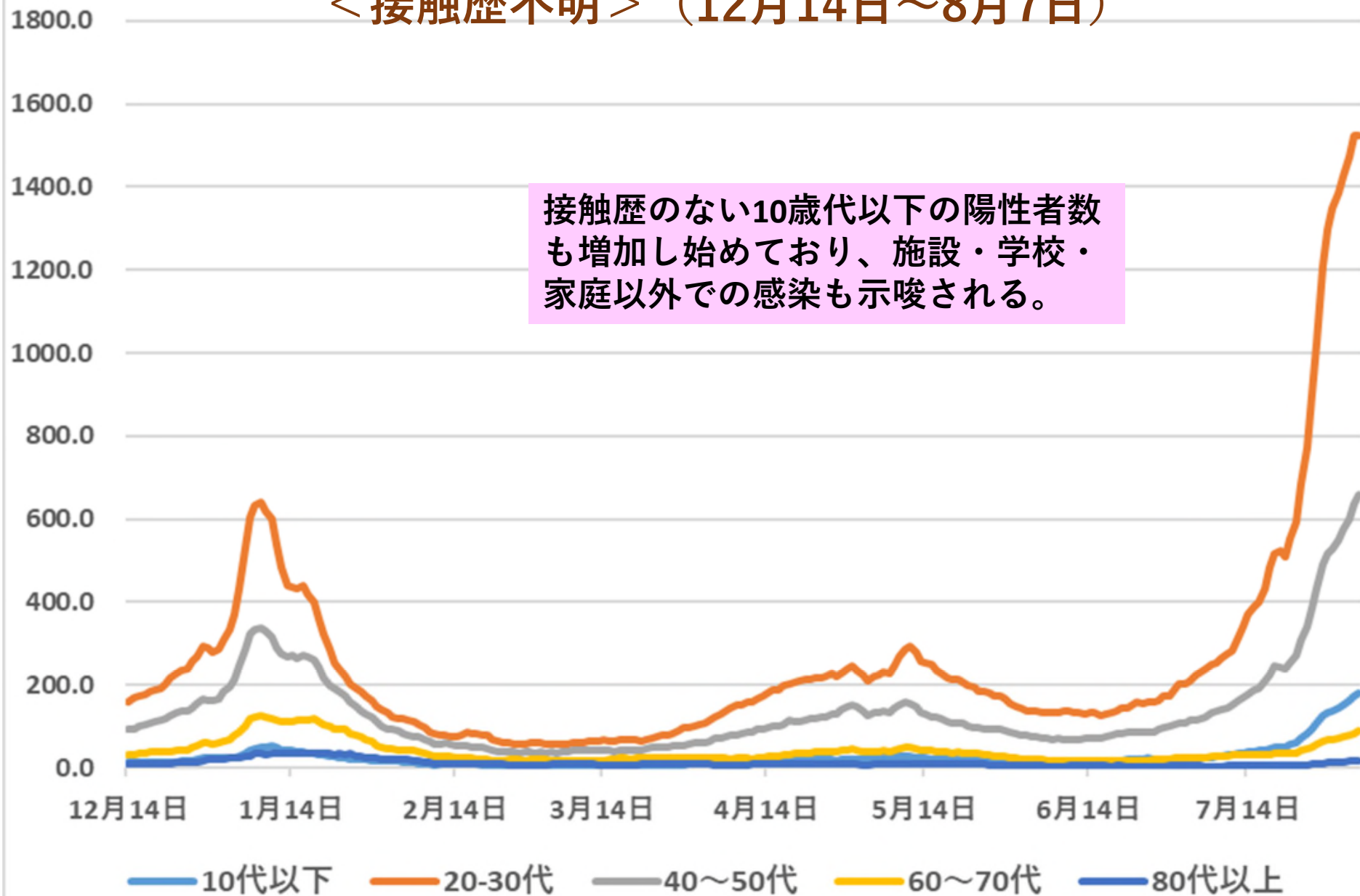


東京都年代別新規陽性者数（七日間移動平均）の推移 ＜接触歴あり＞（12月14日～7月27日）

10歳代以下での感染拡大がこれまでの流行よりも顕著。20～50代はほぼ第3波と同レベルとなっている。

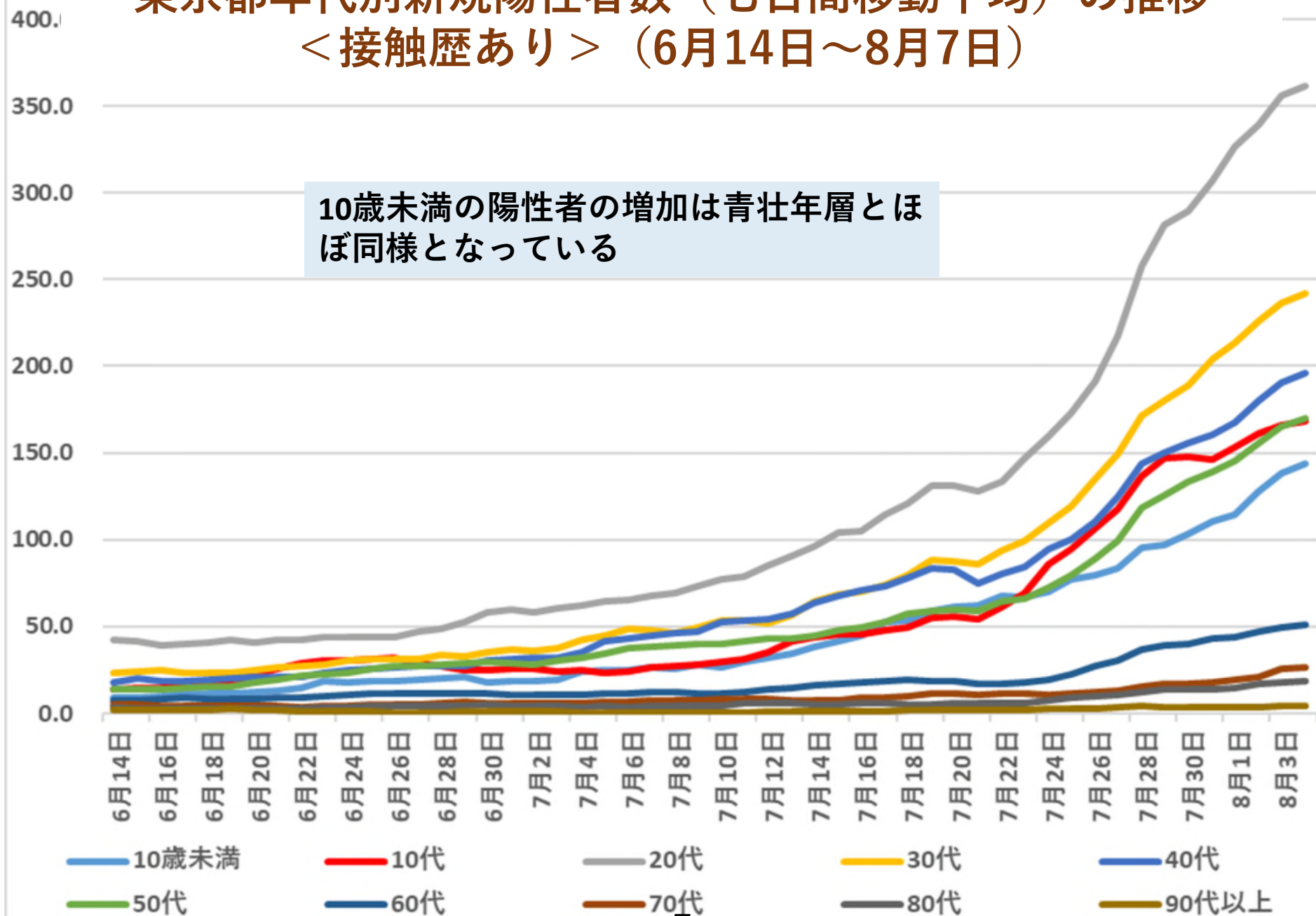


東京都年代別新規陽性者数（七日間移動平均）の推移 ＜接触歴不明＞（12月14日～8月7日）



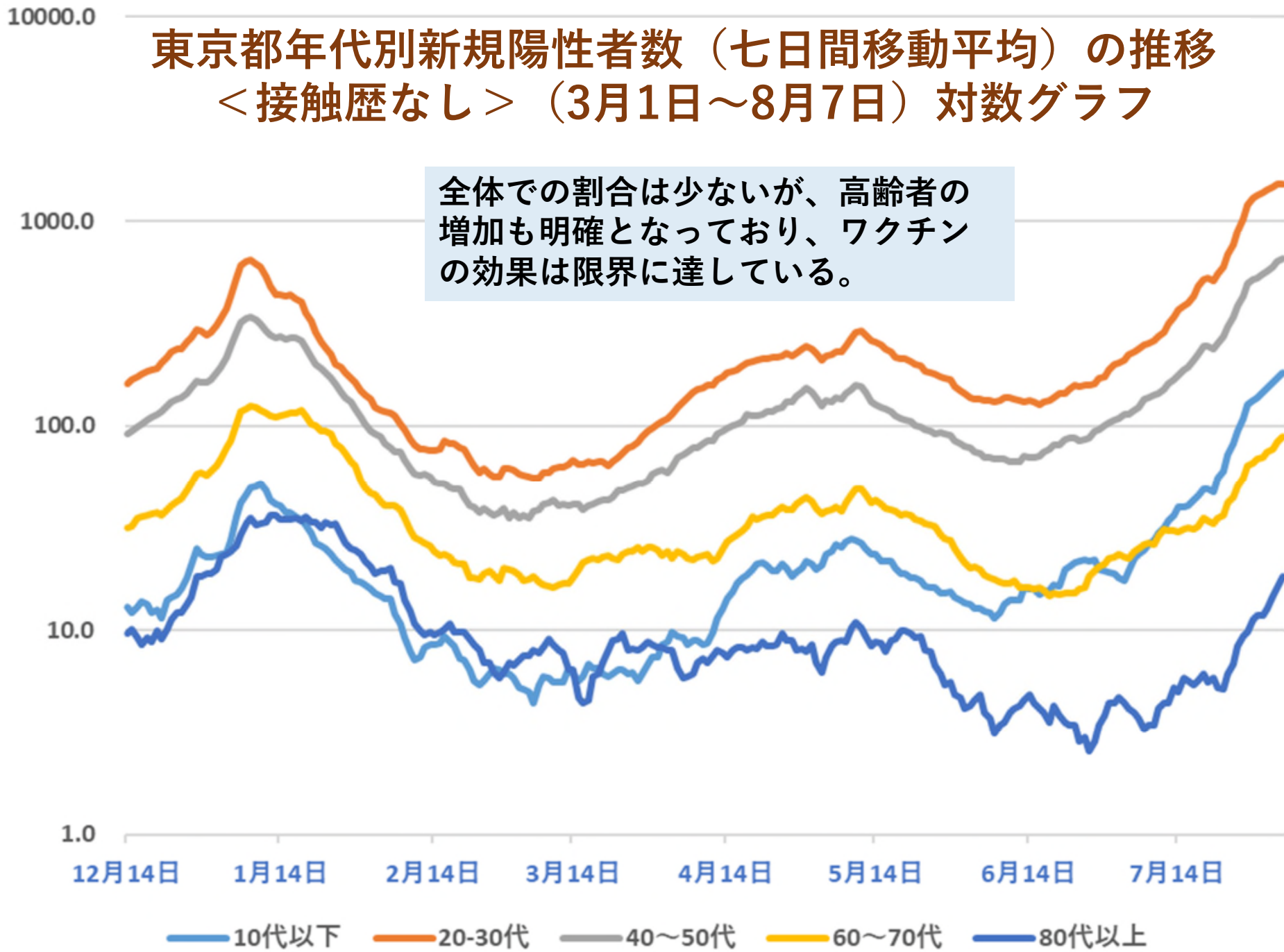
東京都年代別新規陽性者数（七日間移動平均）の推移 < 接触歴あり >（6月14日～8月7日）

10歳未満の陽性者の増加は青壮年層とほぼ同様となっている

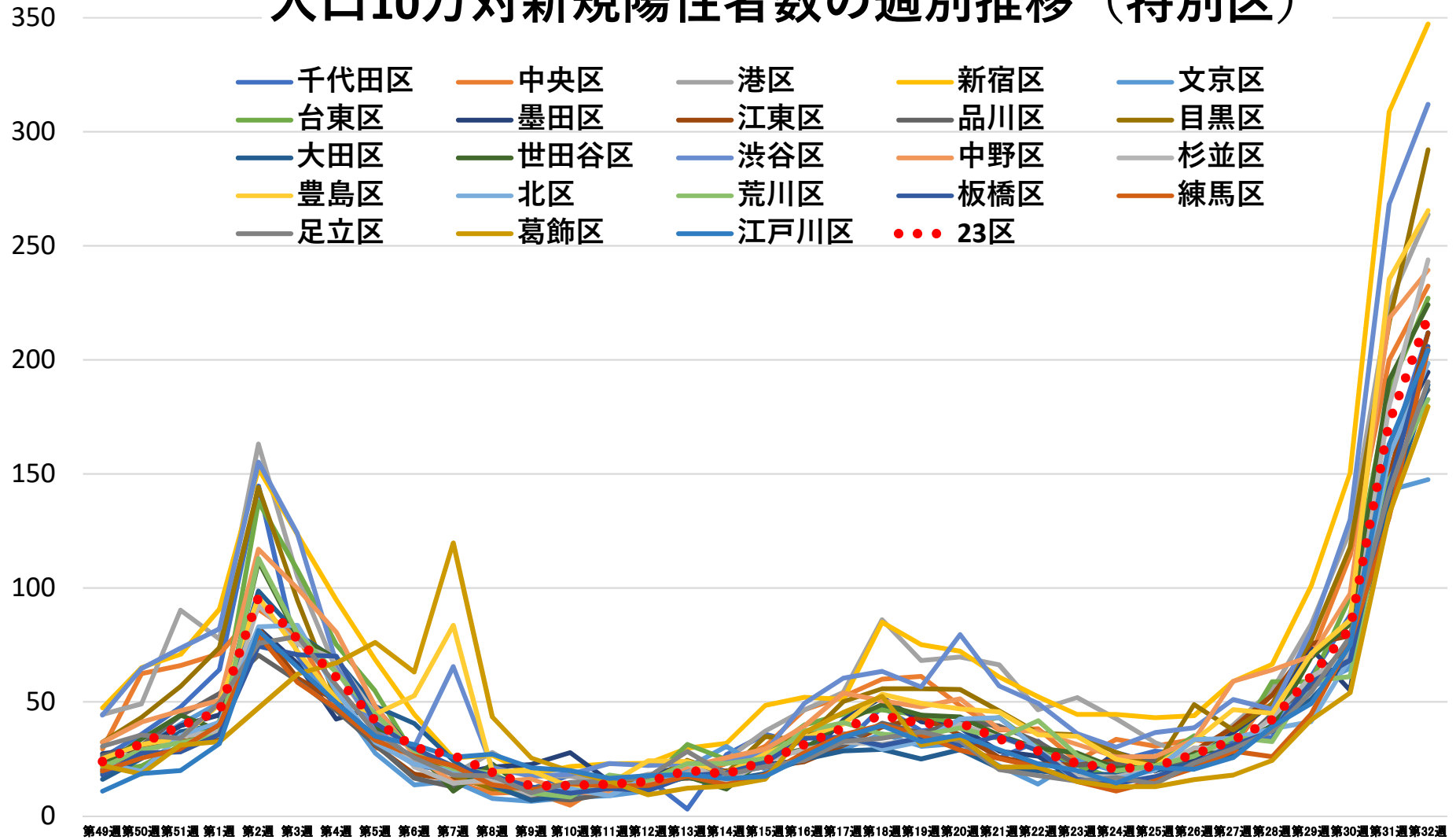


東京都年代別新規陽性者数（七日間移動平均）の推移 ＜接触歴なし＞（3月1日～8月7日）対数グラフ

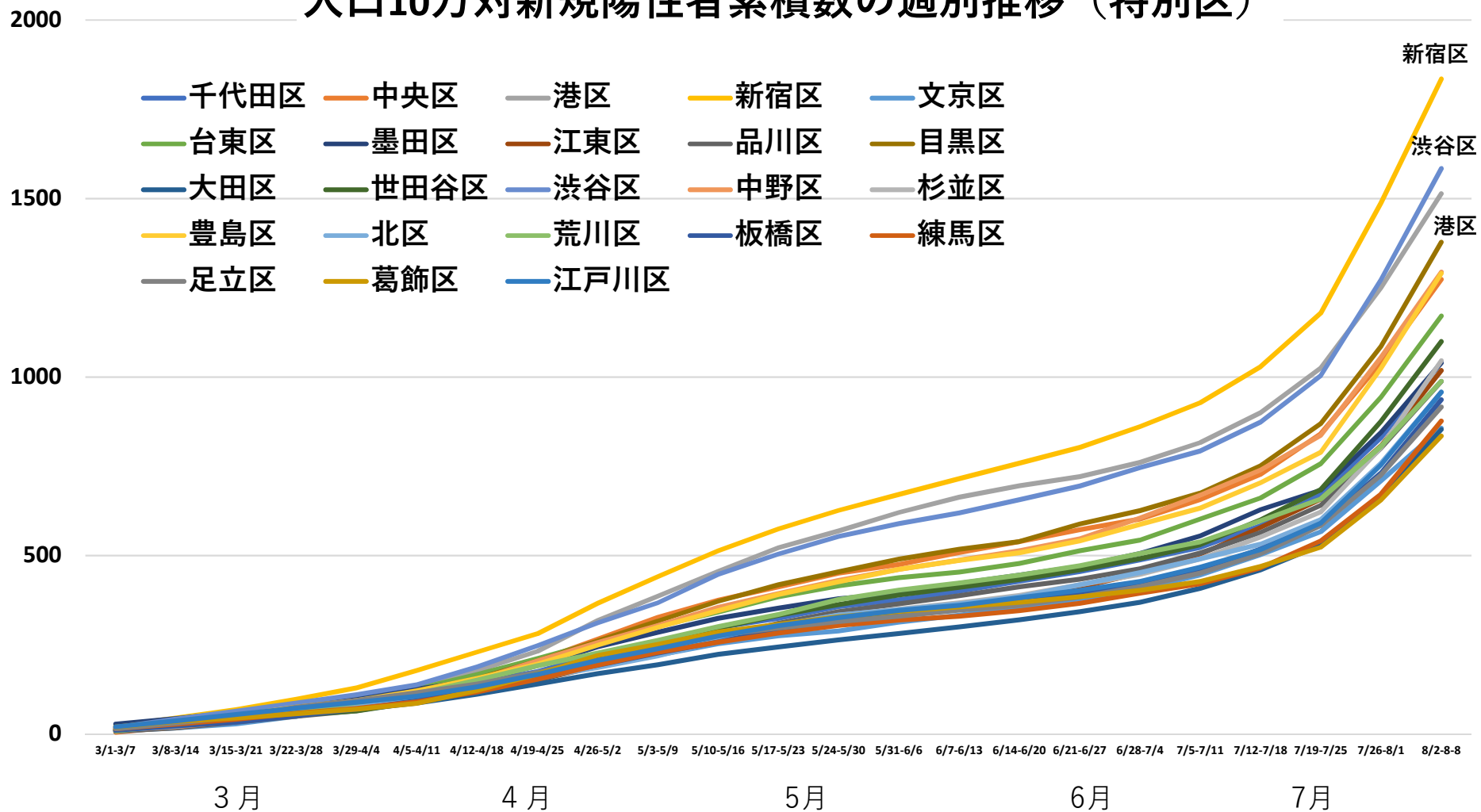
全体での割合は少ないが、高齢者の増加も明確となっており、ワクチンの効果は限界に達している。



人口10万対新規陽性者数の週別推移（特別区）



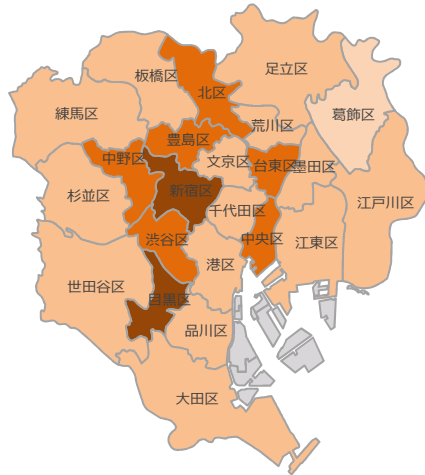
人口10万対新規陽性者累積数の週別推移（特別区）



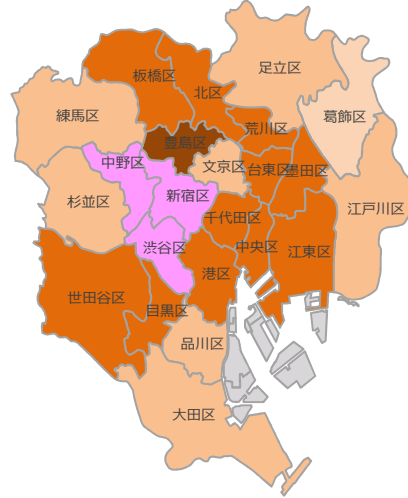
2021年3月の東京都推計人口をもとに算出(東京都総務局統計部)

区別人口10万対の新規陽性者数地図 第26～32週(6/21～8/8)

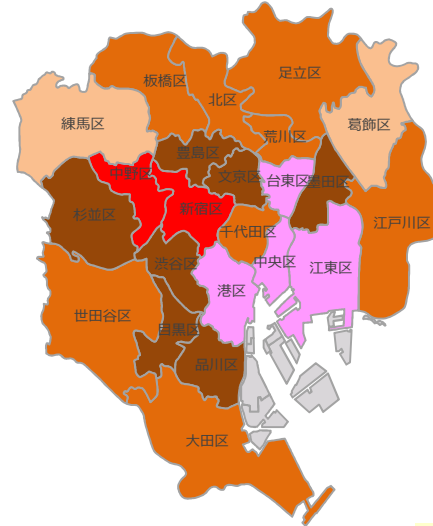
第26週



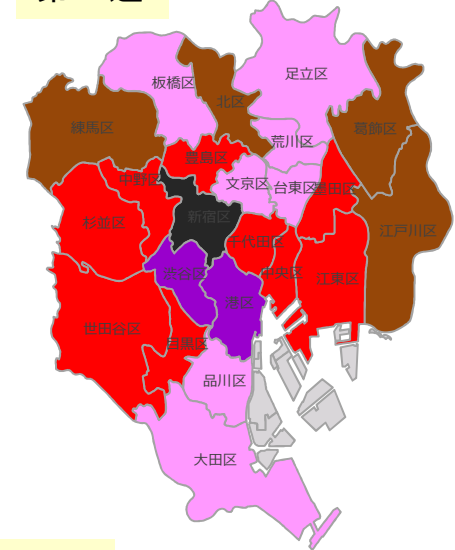
第27週



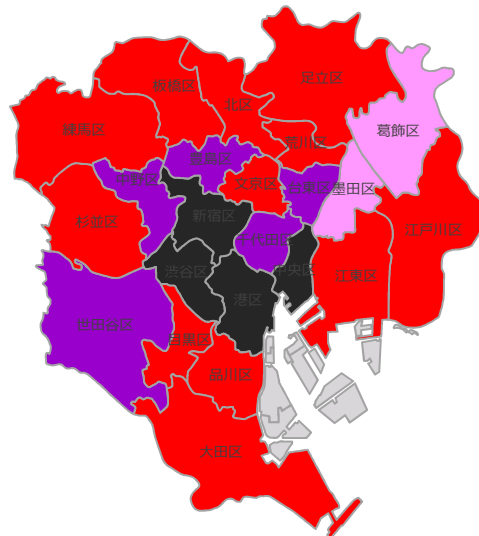
第28週



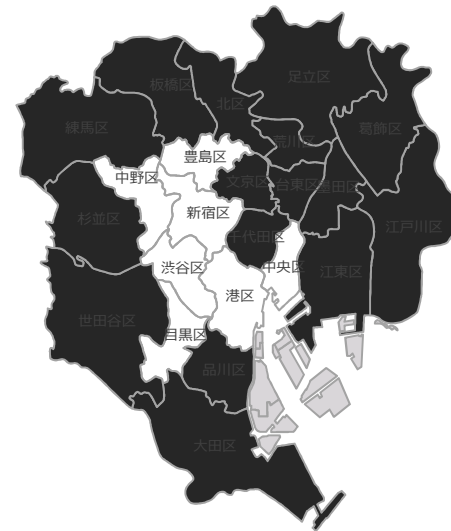
第29週



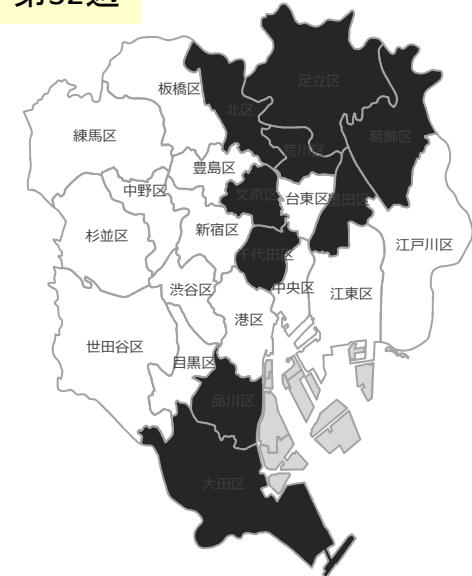
第30週



第31週

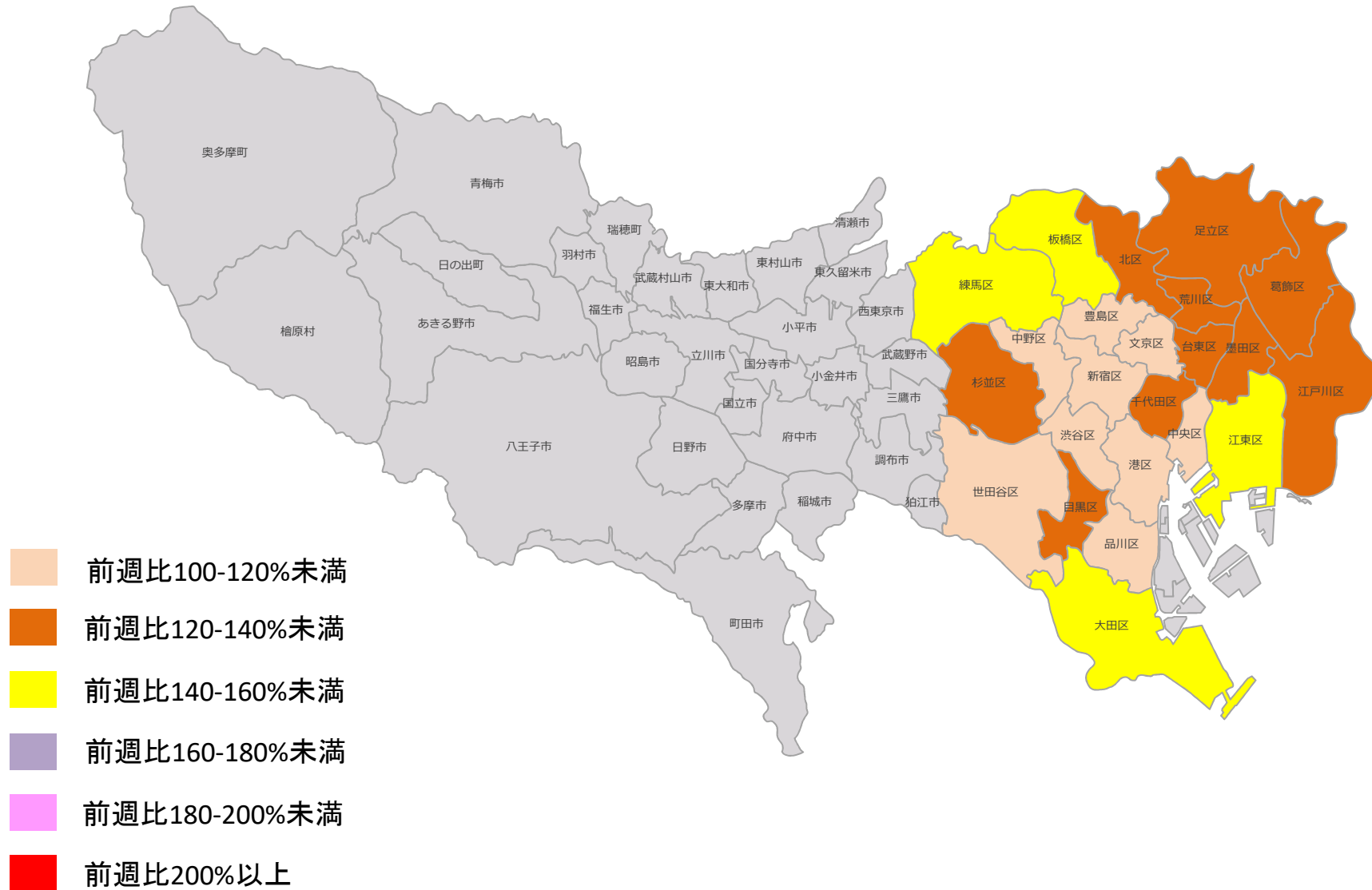


第32週



2021年3月の東京都推計人口をもとに算出(東京都総務局統計部)

区別人口10万対の新規陽性者数の前週比(第31週と32週)



2021年3月の東京都推計人口をもとに算出(東京都総務局統計部)

(暫定結果)

日本人の COVID-19 従来株と α 株の年齢別感染力の比較

目的：日本人の COVID-19 従来株と α 株の感染力を年齢別に比較する。

方法：大阪府の 3 保健所(管内人口 116 万人)の COVID-19 積極的疫学調査結果を用いて、2020 年 11 月～12 月に陽性診断された者に濃厚接触した同居家族 375 人(従来株群)と、2021 年 4 月～5 月に α 株であることが確認された陽性者に濃厚接触した同居家族 143 人(α 株群)の、COVID-19 陽性率を年齢階級別に比較した。

結果：従来株群対 α 株群の陽性率は、

0-19 歳： 14.0%(14/100)対 28.9%(15/52)、

20-39 歳： 17.7%(79/14)対 34.8%(8/23)、

40-59 歳： 12.6%(14/111)対 45.1%(23/51)、

60 歳以上： 31.8%(27/85)対 76.5%(13/17)

と、全ての年齢階級で、 α 株群の陽性率が有意に高かった。

次に、性別、元陽性者との続柄および元陽性者の症状を調整した従来株群に対する α 株群の感染相対リスクをポアソン回帰分析で求めたところ、

0-19 歳： 2.26(95%信頼区間；1.17-4.39)、

20-39 歳： 2.33(95%信頼区間；1.09-5.00)、

40-59 歳： 3.90(95%信頼区間；2.05-7.44)、

60 歳以上： 2.15(95%信頼区間；1.39-3.32)、

と、全ての年齢階級で、 α 株群の感染相対リスクが有意に高かった。

結論：日本人集団では新型コロナウイルス α 変異株は全ての年齢階級において従来株に比べて感染力が 2 倍以上高いことが推測された。

令和 3 年度地域保健総合推進事業「新型コロナウイルス対策等推進事業」
(全国保健所長会協力事業)の一環として実施。

参照：日本人集団における新型コロナウイルス α 変異株の従来株に対する高い感染力
“Increased transmissibility of the SaRS-C-V-2 alpha variant in a Japanese population”

Int J Environmental Res and Public Health 2021, 18, 7752

文責：田中英夫(大阪府藤井寺保健所長)